教育制度論の課題と成果

学校教育講座　露口健司

Ⅰ．授業の目標と概要

本授業の目標は次の２点である。すなわち、①教育の社会的，制度的又は経営的な事項についての基礎概念を理解し，説明できること、②今日の教育政策・教育改革の動向についての理解を踏まえ，それらの意義・効果や問題点について，自らの考えを論述・表現できることである。

これらの目標を達成するために、本授業では、次の5つの過程から成る授業構成を採用している。第１は、「学習課題設定」である。冒頭の５分間を、本時における学習課題の提示と理解にあてている。課題の発見と改善策の提案が、各テーマに共通する課題である。第２は、「講義」であり、40 分間、課題解決に必要な基礎的な法概念・知識が提供される。第３は、「個別思考活動」である。10 分間で、自分の意見を 400 字程度にまとめる訓練を毎回実施している。第４は、「グループ協議」である。15 分間、グループ協議を行い、意見を集約する。第５は、「表現活動」である。15 分間の枠を使う。各グループより、発表内容がエントリーされ、それらの中から授業者が５件に絞り、発表してもらう。発表内容は、独創性・有用性・表現力の視点から学生相互が評価する。第６は、授業のまとめである。発表内容に対して授業者がコメントし、価値ある意見・知識について共有する。そして、第７に、「教室外学習」である。各グループの発表に対するコメントやグループ活動の反省を 400 字程度でまとめる作業が教室外学習として課される。学生は、教室外学習を含めて、毎回 B4 で１枚のワークシートを完成させなければならない。なお、授業は１回毎に完結する。

Ⅱ．授業内容

平成 24 年度は、下記に示すテーマを選択した。テーマは毎年、変更している。

1．ガイダンス
2．教育課程の法制度(1)　教育目的・目標
3．教育課程の法制度(2) 教育課程編成
4．教育課程の法制度(3) 教科書
5．教師と法(1) 教員免許･更新講習
6．教師と法(2) 教員採用と初任者研修
7．教師と法(3) 教員の職位
8．教師と法(4) 教員の勤務
9．教師と法(5) 生徒指導の法制度
11．教師と法(6) 教員の服務
12．教師と法(7) 研修体系
13．学校経営と法(1) 学校評価と目標管理
14．学校経営と法(2) 愛媛県の教育政策
15．最終試験と解説

Ⅲ．授業過程

講義は、パワーポイントとプロジェクターを活用したプレゼン方式で行われる。Wi-Fi を活用して、WEB 上の情報も、随時提供している。

グループを基礎とした演習が半分含まれている。協議の際に意見を言わなければならないため、学習に向かうモチベーションは高くなる。居眠り等は必ず注意する。それはグループのメンバーに迷惑をかけるからである。

無断欠席、遅刻は減点。机の上に飲食物は置かない。帽子は脱ぐ等、学習規律を徹底している。

Ⅳ．学習評価

「日常的の努力(45%)」「学習成果(45%)」「期待を超える成果(10%)」の３つの視点から評価を行っている。日常の成果は、毎回作成するワークシートの出来映えで評価する。学習成果は、最終テストにて評価する。『教育六法』のみを持ち込み可とする論述中心のテストであり、学生にとってはややハードルが高

いテストである。期待を超える成果は、毎回5チームが選ばれる発表機会における相互評価である。

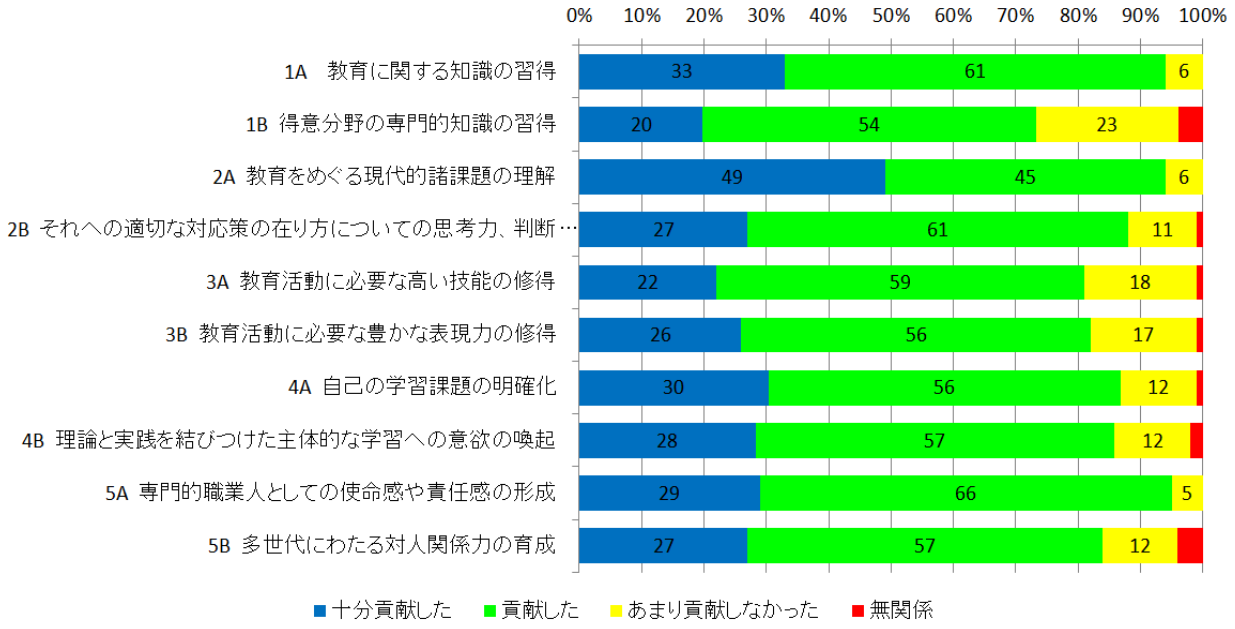
Ⅴ．DPによる授業評価

DPによる授業評価結果は、下図の通りである。「教育制度論」は1年次科目であり、授業目標は、DP1（知識・理解）及びDP2（思考・判断）に相当する。したがって、DP1及びDP2において、少なくとも肯定率で80%は獲得する必要がある。

DP1（知識・理解）：DP1Aは、肯定率（「十分貢献した」「貢献した」の選択率）が94%であり、DP1Bは74%であった。教育制度論を、得意分野と考えていない学生が26%存在すると解釈すればよいだろうか。教育制度・法制は教員採用試験の主要科目であるため、この点は今後改善していきたい。なお、この学年は、最終テストの結果も大変良好であり、教育制度・法規に関する一定の知識習得の成果が認められている。

DP2（思考力・判断力）：DP2Aは、設問項目の中で最も評価が高く、肯定率94%であり、「十分貢献した」を選択する学生が49%となっている。毎回の授業において、教育委員会・学校・教員が抱える課題をテーマとした扱ったことが、高評価につながっていると解釈できる。DP2Bは、課題対応のための思考力・判断の修得に関する項目であり、肯定率は88%である。1割程度の学生が、この能力を習得できなかったと判断している。個人作業の際の支援やグループ活動の工夫を、今後実践する必要がある。

DP3（表現・技能）：DP3～DP5は、本授業の目標ではないが、波及効果としてこれを捉え、学生の評価を見てみる。グループ協議や意見発表の場を設定しているため、DP3についても、一定の肯定率が認められている。ただし、他のDP要素に比べると、相対的に低いスコアとなっている。発表者が毎回5名であり、発表者が固定化されていることが原因であろう。

DP4（関心・意欲）：肯定率はDP4Aが86%、DP4Bが85%である。基準値の80%は超えている。1年次科目であるため、高い数値を出すのは困難である。

DP5（態度）：意外なことに、肯定率はDP5Aが95%と最大値を記録している。学生は、本授業を通して、教師としての使命感や責任感を強く意識してくれている。大変ありがたいことである。また、DP5Bの対人関係力の育成についても、多世代はさておき、伸びを実感している。毎回のグループ活動の効果であると解釈できる。